

学校名 ひがしむらやましりつやさかしょうがっこう
東村山市立八坂小学校

校長名 や べ たかし
矢 部 崇

所在地 〒189-0013 東京都東村山市栄町 3-34-1

TEL 042-391-8115

FAX 042-397-5404

URL <http://higashimurayama.ed.jp/e05-yasaka/>

1 研究主題

「だれもが楽しめる体育学習」
～児童が主体的に課題を解決したくなる
手立ての工夫～

2 研究の期間

平成 29 年度～令和 2 年度 4 年間

3 研究の目的

本校では、休み時間や放課後に校庭で遊ぶ児童の姿が少ないことが課題の一つであった。平成 29 年 10 月、児童を対象に行った意識調査の結果、休日に運動をする子とそうでない子の二極化が著しいことが明らかとなった。そこで、児童に様々な運動遊びを多く経験させること、すべての児童に運動（運動遊び）の楽しさや喜びを味わわせたいと考え、研究・授業実践等を行った。

4 研究の方法・実践内容

(1) 運動環境の改善

① 運動したくなる環境の整備

児童が運動したくなる環境づくりに平成 29 年度から取り組んだ。様々な種類のボールや縄、竹馬やフライングディスクなどの用具を整備し、体育や休み時間など、いつでも自由に使えるようにした。また、授業の準備にかかる時間を極力短縮させるため、校庭に等間隔にポイントを打ち、ラインを引く際の目安とした。さらに、児童が楽しく運動できるよう、音響機器や振り返りカードを記入するためボードを用意した。



② 授業力向上のための資料共有

校長より全教職員に配布されている「体育科の授業改善のためのヒント」（A4 版 1 枚）を通し、学習指導要領が求める体育科の見方・考え方を学び、共有化した。

③ オープン授業

各学年が研究授業当日に向けた授業研究をオープン授業にして、互いに研鑽し合うようにした。

(2) 八坂ハッピータイム（体育的活動）の導入
全担任が運動遊びの「お店」を一つずつ担い、どの児童も日常的に運動遊びに親しめるようにするため、29 年度からスタートした。鬼ごっこやゴム跳び、綱引き、的当て、ダンスなど、多種多様な 12 の運動遊びを年 23 回設定し、クラス単位で遊びの場を 2 回ごとにスライドする仕組みとした。毎回遊びの終わりに振り返りの時間を設け、教師は児童が楽しく遊べたかを聞くことに加え、もっと楽しく遊ぶためにはどのような工夫が考えられるかを問い、次回に生かせるようにした。また、児童がより運動に親しめるよう「八坂ハッピータイム」のオリジナルキャラクターを「ハッピータイム」



(3) 体育指導の研究

運動学習を通して、三つの資質・能力をバランスよく育むための体育指導の研究を実践した。

研究を始める以前は、教師が児童に運動の技能を高めさせたいとの思いばかりが先行していた。その結果、説明の時間が長く、教師主導による技能重視の指導となっていた。そこで、研究推進部を中心にすべての児童が楽しめる体育学習について議論を重ねながら、研究授業による実践を行った。平成 30 年度は東京都小学校体育研究会の研究協力校として研究発表を行った。

①系統性を意識し、思考を伴う場や用具の工夫

中学年のベースボール型ゲームでは、3年生でゲームの規則や行い方を知り、4年生では規則を発展させながらチームで作戦について考え、ゲームを楽しめるようにした。また、3年生では360度フェアゾーンとして、誰もが安心して打ち、走れるよう場の工夫を考えた。4年生では、打つ用具をバットだけでなくラケットも用意し、ボールの重さや大きさも工夫できるようにした。

②児童同士の交流

学習の中で伝え合いの場面や動きを工夫する場面を意図的に設けた。4年生の水泳運動や6年生の器械運動では、異質グループによるトリオ学習を行った。児童同士が主体的、協働的に学習する姿が多く見られた。

③学びにつまずきのある児童への手立て

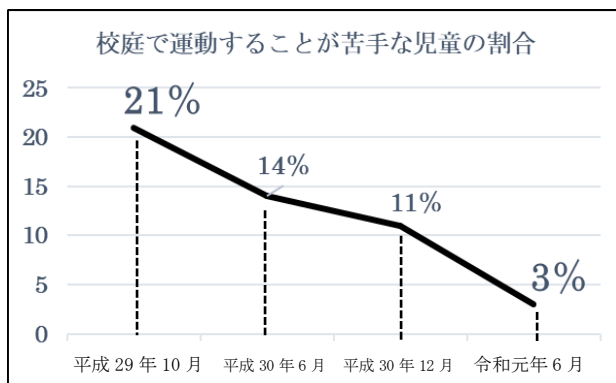
すべての児童が運動の特性に触れ、学びを深められるようにするために、授業のユニバーサルデザイン化を図った。児童の実態を分析し、特に学習のつまずきが想定される児童に配慮した場づくりや言葉掛けを行えるよう工夫した授業作りを行った。

5 研究の成果

研究を進める中で、以下の指導理念を共有化することができた。体育の授業で大切なことは、「すべての児童が運動に親しみをもち、生涯にわたってスポーツライフを楽しめるようにすること。」

「運動技能の向上を目的とするのではなく、児童に運動の特性を味わわせながら、学習を通して3つの資質・能力をバランスよく高めること。」「児童の発達段階や実態に応じ、系統性を意識した指導計画に基づいて指導を行うこと。」などである。

令和元年12月に児童を対象に行った意識調査では、体育学習が「好き」「まあまあ好き」と回答した児童が98.4%となり、同年5月の結果より



7.4%増加した。その理由として、「教え合いができる」「工夫して運動ができる」と感じている児童の割合が合わせて10%増加したことが挙げられる。また、校庭で運動することが苦手な児童の割合は、平成29年10月調査で21%であったが、令和元年6月調査では3%まで減少させることができた。運動好きな児童100%を目指し、さらに改善を図りながら取り組んでいく。

6 研究の意義、発展性

研究を通して得た成果は、子供にとって最大の運動環境は、教師自身であると皆が実感できたことである。研究によって、教師の指導観は大きく変容した。技能重視の傾向（スポーツ指導型）から、児童の主体性や思考力・判断力・表現力を重視した授業づくりを、教員の皆が行えるようになった。これは、本校の財産である。

「体育健康教育地区公開講座」の開催

本校では、保護者・地域に向け、全学級で体育授業や健康教育に関する授業公開を行っている。令和元年度は1年生では学級活動「はし名人になろう」、2年生では「食事のマナーについて」、3年生では学級活動「食べ物を三つの仲間に分けよう」、5年生では「マット運動」、6年生では総合的な学習の時間「オリンピック・パラリンピック教育」、特別支援学級では体育「リズム運動」などを行った。



4年生では公益財団法人 日本学校体育研究連合会 足育推進委員会の方の協力も得て、学級活動「足のヒミツを知ろう」の授業を行った。実験を通して土踏まずの仕組みなどを学び、足腰を丈夫にするためには、子供のときにたくさん運動することが大切であることを学習した。

すべての児童が運動に親しみ、体育授業を通して学びをより深めていけるよう、教師自身が進んで学び、保護者や地域にも協力を得ながら、今後はまだ行っていない運動領域や内容の授業研究に取り組み、「チーム八坂」として八坂小体育授業のデザイン化を推進していく。